

【ビオトープ現場研修会第8弾】
第2回ビオトープ実践フィールド講座 実施報告
ーC.W.ニコル・アフアの森ー
森を知るための方法を学ぶ

10月15日(土)～16日(日)、財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団の協力のもと、長野県黒姫周辺において2回目のビオトープ実践フィールド講座を開催しました。

プログラム

1日目◆森を知るための方法1 ー 午後

- ・ビオトープの再生と生物多様性の回復を目指した森づくりの実際
- ・森林構造を学ぶ、土壌と植生の違いなど

◆アフアの森の概要と植生調査の概要説明、意見交換 ー 夜

2日目◆森を知るための方法2 ー 午前

- ・植生調査の実習

◆河川環境、構造物の視察と解説 ー 午後

- ・近自然工法により改修された河川の視察(鳥居川)
- ・河川構造物(砂防ダム・魚道など)の視察(関川)

アフアの森とは・・・

日本の森をふたたび野生動物の棲める豊かな森に戻したい。そんな思いでC.W.ニコル氏は17年前、長野県の荒廃した里山を少しずつ買い、再生活動をはじめました。そして、様々な生きものが暮らせる森となりつつある今、この森を永遠の森にするためにC.W.ニコル氏はこの土地を寄附しました。この森で起きることが、日本中の森がよみがえるための一歩となることを願って、アフアの森を「財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団」の森にしました。

フィールド講座スタート

10月15日(土)午後1:30、JR黒姫駅集合。バスに乗り換え、アファンの森へ向かいました。

◆今日のプログラムは「森を知るための方法」です。アファンの森を歩きながら森について学びました。



間伐など、手を入れてよみがえった林です。
コナラなどの落葉樹林で、歩くと地面が
フカフカでした。とてもきれいですね。



間伐した木は、薪や炭焼き、
キノコのほだ木などに利用されます。



この林には、コナラ、モミジ、カラマツなど
さまざまな植物の実生苗が見られます。
林床に適度な光が届く健全な林である証拠ですね。



この下を掘ってみると、
見事な土壌の断面が見えました。
地表近くには、適潤性黒色土という
豊かな土壌が堆積しています。



手を入れていない区域です。手を入れた
ところとの比較をするために残してあります。
この状態だと林床に光は届きませんね。
木も太く成長することができません。



萱場(ススキ原)です。炭焼小屋の
萱葺屋根の葺き替えに利用します。
草むらに巣づくりをするウグイスなどの
棲みかにもなります。



群落断面スケッチの実習風景。
スケッチをすることにより、見過ごしていた
ものもしっかり見られるようになり、
森の見方が変わってきます。



森の達人、松木さんです。
森づくりについて、ためになる、そして
楽しい話をたくさん聞かせていただきました。



夜の講義は1日の解説や明日の実習内容の説明、そしてアフアの森についてなどです。



講義の後は、意見交換会と懇親会です。
皆さんの日頃の活動などを話して
いただきました。夜遅くまでお疲れ様でした。

2日目スタート。

◆まずは植生(毎木)調査の実習です。



幹の太さを測定し・・・。



木の位置を測定して、記録していきます。



つづいて、樹冠投影図作成の説明です。

樹冠を見上げています。



アフアの樹冠はこんな感じです。



森の中での昼食。

食べ物が何倍もおいしく感じます。
メニューは長野の定番おやきでした。



ゲームをしているわけではありません。

落ち葉を集めて
「これはミズナラ、これはウリハダカエデ」
と確認しているところです。

◆午後は、河川環境の視察です。



近自然工法により改修された鳥居川です。
環境に配慮されていて、
あまり改修された感じはしませんね。



河川の構造について、また、
改修工事についての説明を聞きました。



関川です。こんな巨大な砂防ダムがありました。
魚道が設置されてはいますが、
きっと生物の移動を困難にしています。



ダムの上流側です。自然の流れがとてもきれいですね。この先には有名な苗名滝があります。



下流側は、練り石で護岸されてしまっています。
ダムを境に、上流と下流では違った
環境になってしまっています。

河川の改修やダムの設置が生物の生活に大きなダメージを与えてしまうことは明白です。改修やダムの設置が必要か必要でないかということと同時に、環境を変えてしまうのであれば、生物にいかに影響を与えないかということをもっと考えなければなりませんね。

これで今回のフィールド講座は終了です。参加者の皆様お疲れ様でした。